

都道府県名	宮崎県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

宮崎市立宮崎西小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	4	3	3	3	2	3	2	21	28	
児童数	98	106	116	83	68	86	3	560		

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本を身につけ、自ら学び進んで考える子どもの育成  
 ~ 読み・書き・計算を中心にした基礎学力の定着と個に応じた指導体制，指導方法，評価の工夫を通して ~

【仮説】

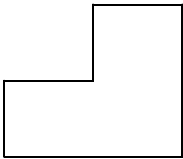
読み・書き・計算を中心に基礎学力を身につけさせ、個に応じた指導体制，指導方法，評価の工夫をすれば、確かな学力の向上へとつながる基礎・基本の定着を図ることができるであろう。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

ア 4年生・算数「面積」（子どもの理解度に差が出やすい内容であるため）

一人の指導者による習熟度別学習を試みた。解決する段階を主に自分の力で進むコースと主に支援を受けながら進むコースに分けて学習を進めた。コース分けについては、これまでの学習状況と児童の自己評価等も参考にしながら、児童の意思を尊重して行っている。具体的な授業の流れの一つを以下に示す。

学習内容及び学習活動（～教師の支援）	
主に自力で進むコース	主に支援を受けながら進むコース
<p>1. 面積の求め方の学習を振りかえる。          2. 本時の学習について話し合う。</p> <p>右の図のようなチョコレートがあります。          このチョコレートの面積を求めましょう。</p> <p>学習課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>L字がたの図形の面積を工夫して求めよう。</p> </div> 	
<p>3. 問題解決の見通しを立てる。          複数の問題解決の方法があることに気づかせ、いろいろな方法で面積</p>	<p>3. 問題解決の見通しを立てる。          見通しが立たない児童が予想されるので、コース内での一斉指導を中心に</p>

<p>を求めよう指示する。</p> <p>4 . 自力で解決を図る。 終わったら，その他の解決方法についても考えさせる。 自力解決ができない児童にはヒントカードを活用させる。</p>	<p>解決の支援をする。</p> <p>4 . 教師の支援を受けながら解決を図る。 自分の解きやすい方法で問題解決をさせる。 自力解決ができない児童には，きめ細かな支援を行う。</p>
<p>5 . 解決方法について話し合う。 2つの長方形に区分して面積を求める方法，大きな長方形を考え，欠けた部分をひく方法それぞれについて発表させる。 話し合いのまとめを支援する。 児童から出なかった解決方法については，教師の方から説明し，理解させる。</p>	
<p>6 . 練習問題をする。 補充的な問題や発展的な問題に取り組みせ，複合図形の面積の求め方への理解を深めさせる。 答え合わせについては自分でできるように準備しておく。 次の問題に行く際の指示を的確に表示することで，意欲を高めさせる。</p>	<p>6 . 練習問題をする。 補充的な問題に取り組みせ，複合図形の面積の求め方への理解を深めさせる。</p>
<p>7 . 本時の学習を振り返る。 お互いのコースのよかったところを称賛し，今後の意欲を高めさせる。 学習ふりかえりカードをもとに，自己評価させる。</p>	

#### イ 5～6年生・一部教科担任制の実施

(子供を複数の教師によって多面的にとらえることにより，一人一人の児童のよさを生かすことができるようになるし，小・中学校間の段差解消に役立つため)

一部教科担任制についての基本的な考え方

<導入に当たっての問題点>

交換授業では，週 時間という枠の中での実践であるため，専科との調整や特別教室配当の調整など，時間割作成にかかわる時間がかかりすぎる。

出張が入った場合は，交換授業が成立しないため，長期の計画が立てにくい。

1 単位時間のみでの交換授業では，教科によって授業時間が足りない場合もあり，2 時間つづきの授業が計画しにくい。

国語・算数といった教科は，年間の授業時数が多いため，毎日授業を計画しなければならず，生徒指導上の問題への対応が十分できない場面が出てくる。

教師の専門性を考えた場合は，国語・算数よりも他の教科の方が得意分野の専門性を発揮しやすい。

1 校時からの交換授業は，朝の指導・連絡が不十分になり，基本的な生活習慣の徹底にも影響がでる。

< 導入に当たっての配慮事項 >

一部教科担任制を導入する学年は、高学年とし、学年内での教科担任を交代する。

低学年では、合同授業（学年内TT）など創意工夫して取り組み、中学年では、合同授業の他、学級の枠を外した授業や交換授業を行い、高学年での一部教科担任制への移行がスムーズにいく環境作りに努める。

教科は、国語・算数・体育・道徳・学級活動・総合的な学習の時間以外とする。

国語・算数は、中心的な教科として時数も多く、常時指導や家庭との連携も大切になることから担任が指導するようにする。また、スキルタイムでの指導など研究との関連が大きいことから担任が指導にかかわるようにする。

体育は、健康安全の面から日常の健康状態を把握しやすい担任が指導するようにする。

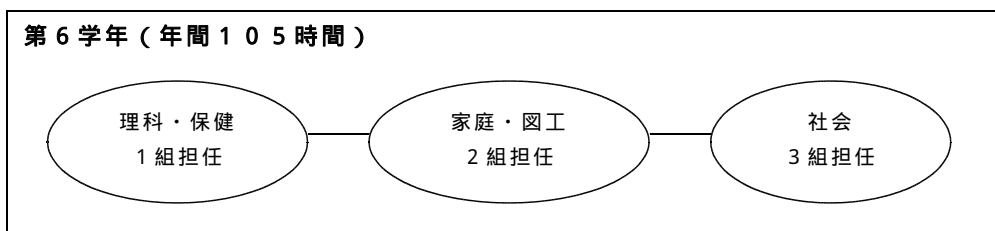
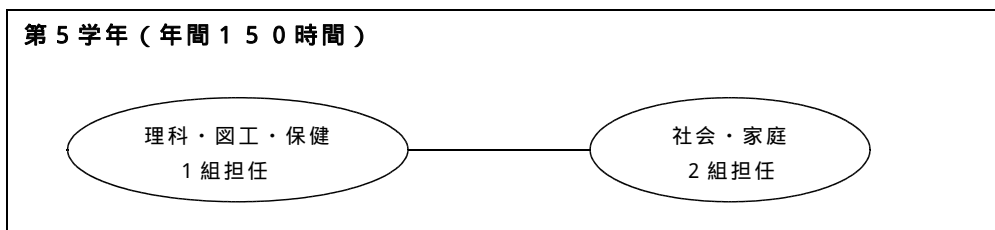
道徳・学級活動は、心の教育や仲間作りなど学級経営に深くかかわる領域であり、学級を単位とした「共に生活する場としての集団」に必要であるので、担任が指導するようにする。

総合的な学習の時間は、学年として活動し、学級の枠をはずした学習として位置づけてあるため担任が指導するようにする。

担当教科は年間を通じて指導し、同じ時数になるように計画する。

教科の時数配当や年間指導計画、さらにその教科の評価の関係から、年度始めから教科担任制を実施するようにする。

【教科担任制の教科振り分け】



## 時間割作成の工夫

時間割編成を「一部教科固定の変動型」とする。

一部教科固定の変動型・・・教科担任をする教科を固定し，特別教室配当もそれに準じて配当する。主に教室で学習する教科は変動することがある型の時間割である。

時間割編成は，2週間を1サイクルとした基本形で作成し，教科担任制を実施する曜日（5年火曜日と木曜日 6年月曜日と水曜日と金曜日）を固定する。

教科担任が出張等で授業できない場合は，専科「音楽」を実施できるようにする。音楽専科の配当時間・・・各学年の教科担任制を実施する曜日以外の曜日に位置づける。

基本時間割の中で，生徒指導上の緊急の対応などを考慮して，原則として1校時は学級担任の授業が入るようにする。

90分授業など弾力的な時間の運用に対応するため，2時間続きの固定時間を位置づける。（計画段階で1時間に変更可能）

## 時間割作成の手順

時間割作成の1か月前までに，専科等は担当教科の時間割案を作成する。

時間割作成2～3週間前に，【ウィークリープラン】案を参考に専科等の時間割を1枚のシート【専科等ウィークリープラン】にまとめる。

時間割作成1週間前に，教務主任がが出張等を確認しながら，専科等と調整し，調整後，教務主任が5・6年の【教科担任用ウィークリープラン】を作成する。

時間割作成2日前に，再度出張等を確認して，【ウィークリープラン】【専科等ウィークリープラン】【教科担任用ウィークリープラン】を各担任へ配布する。

1年～4年担任は，【ウィークリープラン】と【専科等ウィークリープラン】をもとに時間割を作成する。5・6年担任は，【ウィークリープラン】と【教科担任用時間割】【専科等ウィークリープラン】をもとに時間割を作成する。

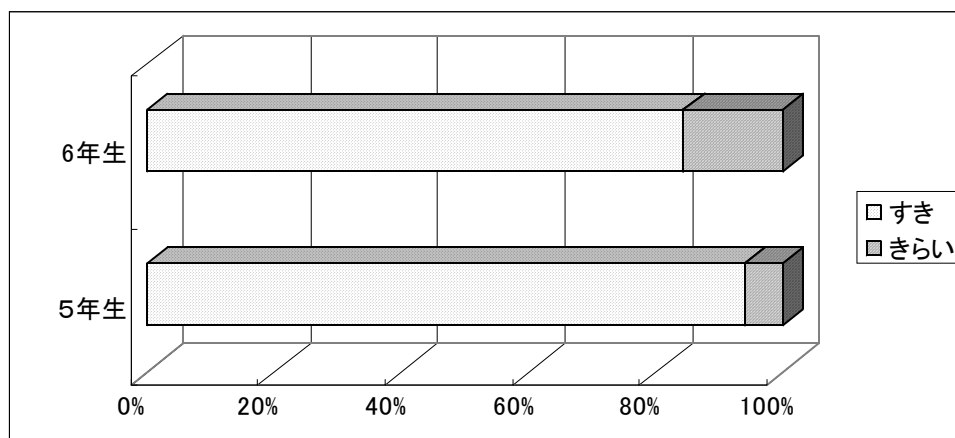
5・6年担任は，「教科担任制枠」について各学年で調整をする。

【ウィークリープラン】とは・・・2週間の行事予定と2週間を1サイクルとした各学年の各教科等の目安となる時数を示したワークシートのことである。

専科等の計画外授業や校長・教頭などの授業参加，体育館や特別教室の計画外活用，校外学習の計画は，職員室の【ウィークリーボード】を活用して調整する。

教科担任制についての意識調査（5・6年生へのアンケート）実施（平成15年10月）

設問1 いろいろな先生から教えていただくのは好きですか。



「好き」の主な理由

- ・いろいろな先生と交流できる。
- ・教科ごとに説明が分かりやすい。
- ・詳しく教えてくれる。
- ・気分が変わる。
- ・楽しい。
- ・教科にあった先生が教えてくれる。
- ・先生一人一人がおもしろい。
- ・先生がその教科に専念できるから。
- ・毎回の時間が楽しみにできるから。
- ・教え方や学習の進め方が違っておもしろい。

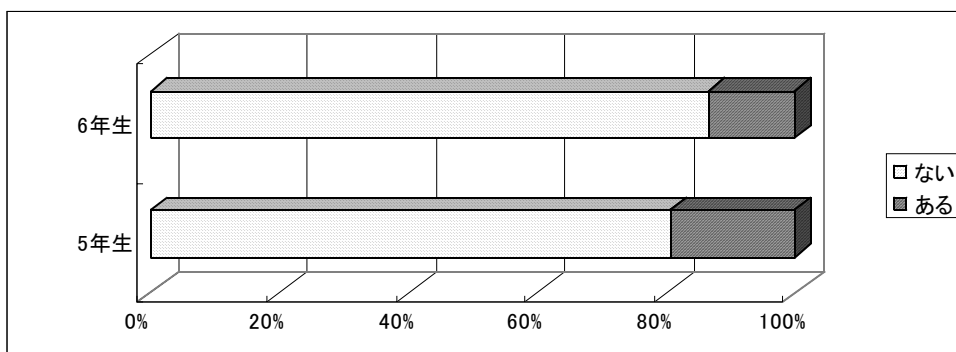
「きらい」の主な理由

- ・おもしろくない。
- ・なんとなく。
- ・分からないことを質問しにくい。
- ・教え方が違って、分かりにくいから。
- ・担任の先生とやりたいから。

設問2 いろいろな先生から教えていただくと、自分自身にとってどんなことがよいと思いますか。

- ・名前を覚えてもらい、いろんな先生と話しやすくなり、学校が楽しくなること。
- ・担任の先生が言わないことを言ってくれ、分かりやすく教えてくれること。
- ・中学生になるときの準備になると思う。
- ・雰囲気違って緊張感があり、いろいろな情報、知識が広がること。

設問3 いろいろな先生から教えていただくとき、こまることがありますか。



「こまることがある」の理由

- ・学習の進め方がいつもと違うので、勉強しにくい。
- ・ふだん話している先生と違うので、話しづらい。「分かりません。」と聞きにくい。
- ・はじめ、名前を間違える時がある。
- ・自分の気持ちが分かってもらえない時がある。
- ・先生によって、説明や指示が違う時がある。

「こまることがない」の主な理由

- ・担任や他の先生がちゃんと教えてくれるから。
- ・教科ごとに分かりやすく教えてくれるから。
- ・自分のことは自分で考えるから、先生が変わっても問題がない。

考察

教科担任制のもつよさを伸ばしていく必要がある。

一部教科担任制を導入して半年である。多くの子どもたちが、担任以外の教師の授業を受けて、「楽しい」「おもしろい」「学習がよくわかる」いろんな先生とふれあうことができる」「中学校への準備になる」と、肯定的に受け止めている。今後もこれらのよさをさらに伸ばしていくことが大切である。

教科担任制のデメリットに十分配慮していく必要がある。

肯定的に受け止めている子どもたちが多い一方で、「先生によってやり方が違う」「担任以外の先生と話しづらい」「伝えたいことがわかってもらえない」と感じている子どもたちがいることも事実である。教師と子どもの信頼関係づくりの不十分さ、授業の進め方の違いなど、その問題点を明らかにしながら、改善していくことが必要である。

ウ 全学年・基礎学力の定着の工夫

(全職員で共通理解を図り、全校統一して実施することで効果が上がるため。)

読み・書き・計算の力を高める日常指導の工夫

**読む**

「ことばをみがこう」の活用

- ・全校朝会の始まりにみんなで、その月の詩を暗唱していく。
- ・音読集の中から、暗唱したものは「ことばをみがこう」に書き込ませていく。

「全漢字プリント」を活用した音読練習

- ・ 全漢字プリントをスムーズになるまで、音読することで漢字力を伸ばす。

**書く**

漢字スキルタイム・漢字ワーク「漢字王国への道」の作成し、活用を図った。

視写

- ・ 教科書本文の視写を授業の中に意識的に取り入れる。
- ・ 「ことばをみがこう」の詩を視写している。

**計算**

計算スキルタイムの充実

- ・ 毎回の記録をきちんと残していきます。スキルタイムの時間だけでなく、算数の授業や月曜日の放課後の時間などにも計算に取り組むようにする。

授業や日常活動との連携を図った家庭学習の充実

**読む**

学年に応じた読み声カードの活用により、家庭での読み声を定着・継続させる。

**書く**

全漢字プリントの練習を家庭学習の中にも取り入れる。

視写も取り入れる。(漢字ドリル・教科書など)

**計算**

100マス計算やわり算100題・10回筆算・エレベーター計算などを宅習の中に取り入れていき、学校でのスキルタイムと宅習を連動させる。

## (2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力向上のための学びの在り方の創造</p> <p>～ 読み・書き・計算を中心に、個に応じた、わかる学習指導の工夫を通して ～</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>読み・書き・計算を中心に、個に応じた、わかる学習指導の工夫をすれば、一人一人に確かな学力が付き、進んで学習できる子どもが育つであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 少人数，コース別(習熟度を含む)指導の工夫</li><li>・ 問題解決的な学習，体験的な学習の工夫</li><li>・ 一部教科担任制につながる交換授業の導入</li><li>・ 「確かな学力」を支える学習環境の整備</li><li>・ 家庭・地域との連携</li><li>・ 各種調査・学力テスト等の実施，分析，対策</li><li>・ 計算の力を高めるスキルタイムの充実</li></ul>
--------	--

平成15年度	<p><b>テーマ</b>  基礎・基本を身につけ，自ら学び進んで考える子どもの育成  ～ 読み・書き・計算を中心にした基礎学力の定着と個に応じた指導体制，指導方法，評価の工夫を通して ～</p> <p><b>研究の見通し（仮説）</b>  読み・書き・計算を中心に基礎学力を身につけさせ，個に応じた指導体制，指導方法，評価の工夫をすれば，確かな学力の向上へとつながる基礎・基本の定着を図ることができるであろう。</p> <p><b>研究内容・方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数，コース別（習熟度を含む）指導の工夫</li> <li>・一部教科担任制の完全実施（5～6年生）</li> <li>・「確かな学力」を支える学習環境の整備</li> <li>・家庭・地域との連携（家庭学習への支援）</li> <li>・各種調査・学力テスト等の実施，分析，対策</li> <li>・読み・書き・計算の力を高める日常指導の充実</li> <li>・発展的・補足的な問題の開発</li> <li>・評価規準の作成</li> </ul>
--------	---

平成16年度	<p><b>テーマ</b>  基礎・基本を身につけ，自ら学び進んで考える子どもの育成  ～ 読み・書き・計算を中心にした基礎学力の定着と個に応じた指導体制，指導方法，評価の工夫を通して ～</p> <p><b>研究の見通し（仮説）</b>  読み・書き・計算を中心に基礎学力を身につけさせ，個に応じた指導体制，指導方法，評価の工夫をすれば，確かな学力の向上へとつながる基礎・基本の定着を図ることができるであろう。</p> <p><b>研究内容・方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数，コース別（習熟度を含む）指導の工夫</li> <li>・一部教科担任制の充実（中学年でも交換授業を導入）</li> <li>・「確かな学力」を支える学習環境の整備</li> <li>・家庭・地域との連携（家庭学習の充実，地域人材の積極的な活用）</li> <li>・各種調査・学力テスト等の実施，分析，対策</li> <li>・読み・書き・計算の力を高める日常指導の徹底</li> <li>・発展的・補足的な問題の開発，整備</li> <li>・評価規準の見直し・評価基準の作成</li> </ul>
--------	---



### (3) 研究推進体制



今年度は、研究推進委員会での検討を充実させ、そこでもまれた研究内容を各班が中心となって推進できるようにしてきた。

#### 平成15年度の成果及び今後の課題

##### 1. 研究の成果

一部教科担任制の導入など、指導体制の工夫・改善を行うことにより、児童の学習意欲が高まってきた。

コース別指導・少人数指導の工夫で、個に応じたきめ細かな指導ができるようになってきた。

子どものよさやつまずきなどを評価・分析し、それを指導にいかせることができるようになってきた

漢字や計算のスキルタイムの実施や全校統一の宿題を導入したことにより、少しずつ基礎学力の定着が図られ、家庭学習も充実してきた。

指導組織・体制の改善を行うことにより、教師の意識が変わり、開かれた学級経営が他の教育活動においても機能し始めてきた。

##### 2. 今後の課題

個に応じたきめ細かな指導のため、補充・発展的な学習の教材の開発を進めていく必要がある。

一人一人の児童のつまずきを的確に把握するための手立てを工夫していく必要がある。

保護者との連携をさらに推進し、家庭学習のさらなる充実を図る必要がある。

家庭・地域とのさらなる連携と学力向上への充実した取組についてさらに情報を発信していく手立てを講じる必要がある。

## 学力把握のための学校の取組について

平成14年度	5月にNRTを実施
平成15年度	5月にNRT，1月にCRTを実施
平成16年度	5月にNRT，1月にCRTを実施予定

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

中間発表会の開催実績（平成15年12月2日，宮崎西小学校での発表 HP作成等の工夫の実績については公開中 さらに新しい情報を更新中 （ <a href="http://www.mcnet.ed.jp/miyazaki-nishi-s/">http://www.mcnet.ed.jp/miyazaki-nishi-s/</a> ）
--

- 【新規校・継続校】 14年度からの継続校
- 【学校規模】 19～24学級
- 【指導体制】 少人数指導，T・Tによる指導，一部教科担任制
- 【研究教科】 国語，算数
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有